

令和 3 年度
「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立市岡東中学校
令和 4 年 3 月

1 学校運営の中期目標

【学校理念】

○安心・安全な学校 ○学力・体力の向上 ○人権尊重の精神

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・基礎・基本の充実を図り、自ら学ぶ態度の育成に努め、学力の向上を図る。
- ・自らを尊重し、互いに違いを認め合い、他社へ思いやりの心を育て、人権尊重の精神を養う。
- ・基本的生活習慣を身につけ、たくましく生きる力の基礎を育み、健康で活力ある学校生活をおくる生徒を育成する。

【大阪市立市岡東中学校 教育目標】

- よく聴き、よく見つめ、よく考えて正しく判断できる生徒になろう。
- 協力し、自主的にものごととりくみ、やりぬく生徒になろう。
- 心身ともに健康な、たくましい生徒になろう。

【生徒努力目標】

- ・時間を大切にしよう
- ・学校を美しくしよう
- ・あいさつをしよう

現状と課題

- 不登校生の増加の要因の一つとして、新型コロナウイルス感染症があげられる。特に昨年度の1年生は、中学校生活になじめないうちに中学校のカリキュラムを進めていったことが年度末まで響くことになった。学習(授業時間数の確保)を優先することも大切ではあったが、一人ひとりの生徒を見つめながら、集団作りを行うことの大切さを身に染みて感じているところである。あらためて、生徒を中心に据えた保護者との連携をやり直す必要がある。
- 昨年度までに「寝ない授業」、授業開始の際に「本時の目標(めあて)」を提示することを実践してきた。まだまだ「本時の目標」を毎時間提示することができていなかったが、教職員が1単位時間の内容・進め方を意識することにより、生徒の授業内容定着が見られてきている。しかし、アンケートの結果、まだまだ「授業に集中している」生徒を増やせる余地があるよう思ないので、より高い結果が導かれるよう、今年度は「本時の目標」だけではなく、「本時の振り返り」にも力を入れていきたい。
- 校舎長寿命化工事の影響で、昨年度当初、生徒の学習環境はいい状態ではなかった。その中でも生徒は丁寧に清掃を行っており、アンケートの結果とともに、生活指導上もいい結果を導いていたように思える。また、令和3年2月に工事が完了し、大変きれいな校舎に生まれ変わったことから、今後は生徒自身がこの美しさを維持する大切さを理解し、より落ち着いた生活環境・学習環境を作り出していく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を100%にする。
- 令和3年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。
- 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を平成29年度末の校内調査より減少させる。
- 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を平成29年度末の校内調査より減少させる。
- 令和3年度末の校内調査における「学校での生活が楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和3年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、平成28年度より向上させる。
- 令和3年度の中学校チャレンジテストにおける正答率4割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成28年度より3ポイント減少させる。
- 令和3年度の中学校チャレンジテストにおける正答率7割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成28年度より3ポイント増加させる。
- 令和3年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、平成28年度より増加させる。
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるシャトルラン、50m走、立ち幅とびの平均の記録を、平成28年度より3ポイント向上させる。
- 学力の基礎となる読解力を向上させるため、読書活動を推進し、図書室を週8回以上開館する。
- 令和3年度末の校内調査における「授業の内容がよく理解できる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。
- 令和3年度末の校内調査における「家庭学習を習慣的に行っている」の項目について、「当てはまっている（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 校内調査において、「学校の清掃が行き届いている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。
- 校内調査において、「学校をきれいに保つために積極的に清掃活動に参加している」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走、立ち幅とびの平均の記録を、前年度より向上させる。

学校園の年度目標

- 校内調査において、「自分は毎日授業に集中することができている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 校内調査において、「授業の内容を理解できていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

年間を通じて新型コロナウイルス感染症対策をとりながらの教育活動だったため、授業や行事が計画通り進まずその都度大幅な修正をしながら対応してきた。そのなかにあっても生徒たちは自分たちのできることを懸命に努力し続けることができたと考えている。迷惑行為はほとんど発生することなく、生徒の誰もが集中した状態で授業を受けることができ、安心・安全な学校を提供することができている。アンケートからも、ほとんどの生徒が学校が楽しい、学校の規則を守っていると回答していることからもその様子がうかがえる。

一方で、不登校生徒の増加には歯止めを十分にかけることはできなかった。個々の人間関係からくる不安感の高まりだけに限らず、社会状況からくる不安感の高まりも不登校となる一因として考えられる。あらためて一人ひとりの生徒を見つめながら、集団作りを行うことの大切さを感じており、生徒を中心に据えた保護者との連携をさらに強化していく必要がある。

学校園の年度目標

大きな器物破損はなく、学校で使用するものは全て丁寧に扱うことができている。また、毎日の清掃活動も学級の班活動として十分に機能しており、その場が美しくなるように清掃活動ができている。

毎週火曜日の朝のスクールクリーン活動は、生徒会の呼びかけもあり毎回多くの参加者を集めている。参加した生徒は主体的に動くことができており、公共心などを育む良い機会となっている。今後も生徒自身がこの美しさを維持する大切さを理解することで、より落ち着いた生活環境・学習環境を作り出していくきたい。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

毎時間での授業のめあてを理解させ達成させることができるよう授業改善や工夫をしてきた効果が徐々に浸透してきている。生徒たちも集中して授業に取り組むことができ、各種学力調査の結果も全体の平均点には若干及ばないものの、緩やかではあるが上昇傾向が見られる。

学習内容の長期的な定着にはまだまだ課題があり、アンケートで家庭学習を習慣的に行っていると回答した割合が 75.3%だったので、全生徒の約 1/4 は家庭学習する習慣が不十分であると考えられる。課題の設定や 1 人 1 台パソコンにある学習ドリルを活用するなど、家庭においても学習を前向きに取り組むことができる工夫をしていく必要がある。

学校園の年度目標

授業に集中している、授業の内容が理解できていると答えた生徒が 85% を超えており授業に対する意欲や興味・関心は高いことがうかがえる。また、授業で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した割合も 87.5% あり、学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」が授業で取り入れられていることがわかる。

今年度は学級文庫を設置し朝の時間を中心とした読書活動を推進した。読書を肯定的に捉えている生徒の割合は 66% にとどまっているので、次年度以降も継続して読書を肯定的に捉えられるように、さらには言語能力の向上にもつなげたいと考えている。

大阪市立市岡東中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。</p> <p>○校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○校内調査において、「学校の清掃が行き届いている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 80% 以上にする。</p> <p>○校内調査において、「学校をきれいに保つために積極的に清掃活動に参加している」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を 80% 以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 道徳教育】（人権・道徳委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活のさまざまな場面を通じて、人間尊重の精神を培う。 ・各学年とも、道徳の教科書を積極的に活用し、実践を記録する。 ・1年に一度、道徳の公開授業を行う。 <p>指標 1年に一度、道徳の公開授業を行う。</p>	B
<p>取組内容②【施策 特別支援教育】（特別支援教育委員会）</p> <p>個に応じた指導・支援のあり方を工夫する。</p> <p>指標 学期に一度、全体研修会を実施する。</p>	C
<p>取組内容③【施策 基本的な生活習慣の確立】（生活指導部）</p> <p>時間励行・挨拶の習慣付け、正しい言葉遣い、正しい服装の指導をおこなう。</p> <p>指標 学校アンケートで、服装や時間を守るなどのルールを守っていると答える生徒の割合を 90% 以上にする。</p>	A
<p>取組内容④【施策 規範意識の育成】（生活指導部）</p> <p>校則と集団生活でのマナーを習得させる。</p> <p>指標 学校アンケートで、学校の決まりを守っていると答える生徒の割合を 90% 以上にする。</p>	A
<p>取組内容⑤【施策 生活指導上の課題への対応（生徒理解）】（生活指導部）</p> <p>家庭訪問、教育相談を中心に、生徒個々の実態を把握し、生徒理解を深める。</p> <p>指標 学校アンケートで、困ったときに相談できる先生がいると答える生徒の割合を 1 回目より 2 回目で向上させる。</p>	B

取組内容⑥【施策 生活指導上の課題への対応（不登校問題）】（生活指導部） スクールカウンセラーと連携し、当該生徒個々の実態に応じた対策を講じる。 指標 不登校傾向にある生徒に寄り添い、保護者との連携を深める。	B
取組内容⑦【施策 安全教育】（生活指導部） 地震、津波、火災等を想定した避難訓練を実施する。 指標 避難訓練を年間2回実施する。	A
取組内容⑧【施策 健康な生活習慣】（健康教育部） 保健委員会活動や保健指導を通し、生徒の健康意識を高める。 指標 自己の健康課題に向き合えるように促し健康意識を高め、検診後の受診勧告の未受診率を減少させる。	A
取組内容⑨【施策 性教育】（健康教育部） 年間指導計画の元、各学年の現状に沿った指導を実施する。 指標 各学年で1回性教育を実施する。	B
取組内容⑩【施策 環境整備】（健康教育部） 整美委員会活動や、定期的な点検により、校内美化の意識を高める。 指標 アンケートで学校の清掃が行き届いていると答える生徒の割合を85%以上とする。	A
取組内容⑪【施策 研修計画】（教務部） 全体研修を計画し、全職員が参加できる体制をつくる。 指標 生徒の安心安全にかかわる研修会を年間1回実施する。	B
取組内容⑫【施策 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（第1学年） 学年目標『メリハリをつけ、お互いを理解し協力しながら学べる』集団をつくる 指標 学年目標を意識させ、達成度（アンケート結果）を学期ごとに上げていく。	C
取組内容⑬【施策 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（第2学年） 日々の教育活動を組織的に取り組み、規律を重んじ、社会性を身につけた集団育成を行う。 指標 校内調査における、「規則」、「あいさつ」の項目において「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。	B
取組内容⑭【施策 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（第3学年） ① 基本的な生活習慣「気持ちの良いあいさつ」「時間・ルールの厳守」の定着を図る。 ② 道徳の授業や普段の学校生活を通して、思いやりと感謝する心を養う。 指標 ①生徒アンケートの「規則」、「服装・時間」「あいさつ」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。 ②学年アンケートの「思いやり」「感謝する心」に関する項目において、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

全市共通目標

- 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にするについては、認知したいじめは0件であるため、解消した割合は100%であり達成できた。
- 令和3年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上については、1回目96.4%、2回目98.1%で2回目の方が上昇しており達成できた。

○令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させるについて、暴力行為や器物破損といった事案は発生しなかった。また、暴力行為を行う生徒は昨年度同様0名で達成できた。

○令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させるについては、1年生2名、2年生は3名、3年生は5名それぞれ増加しており、減少させることはできなかった。

学校園の年度目標

○校内調査において、「学校の清掃が行き届いている」、「学校をきれいに保つために積極的に清掃活動に参加している」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にするについては、1回目82.2%、2回目85.9%で2回目の方が上昇しており達成できた。

【取組内容】について

- ① 道徳の公開授業を9月14日に実施済である。計35回の授業を終われるよう計画的に行っていく。
- ② 巡回相談を実施し、支援を要する生徒の情報交換を行う。
- ③ アンケートで90%以上を超えていた。登校時の挨拶、時間、服装指導を継続して行う。
- ④ アンケートで90%以上を超えていた。基本的なルールを守る意識を徹底し、指導を継続する。
- ⑤ 生徒観察に努め、個々の実態を把握し、指導を継続する。
- ⑥ スクールカウンセラーとの情報交換、連携を図りながら対応する。
- ⑦ 年2回実施し、防災意識と知識を身に付けさせる。
- ⑧ 7月の未受診率は約50%、9月の未受診率は約40%と着実に未受診率の減少が進んでいる。
- ⑨ 3学期におこなう予定である。
- ⑩ 第1回目の結果では、全学年で82.2%と目標まであと少しである。学年別では1年生が74.6%、2年生が87.9%、3年生が87.7%となっているため、整備委員会活動などを通じて、1年生の清掃意識をあげていく必要がある。(12月に清掃美化週間を実施予定)
- ⑪ 1学期にAED研修を実施済み。
- ⑫ 揭示物での意識付けや普段の授業、学年集会で声かけをするなどし、学年目標を意識しながら学校生活を過ごすようにと伝えている。1学期の学年目標達成度は行事が少ない中でも83%だった。2学期は行事などの経験を通して、さらに意識し目標達成度を上げたかっただが、75%と下がってしまった。中学校生活の慣れからくる意識の低さと1学期の時よりも学年全体が更にできるという意識の高さから下がってしまったと考えられる。現在、学級代表を中心目標達成度がどのようにすれば上がるか模索中である。
- ⑬ 1学期に行ったアンケートの「規則」、「あいさつ」の項目において肯定的な回答が98.8%であり、目標を上回っている。
- ⑭ あいさつや時間・ルールの厳守はほぼできて、定着している。ほとんどの生徒が思いやりや感謝の心を持っている。またそれを自ら行動に移し、実践できている生徒も増えてきた。アンケートの「きまり・規則」、「あいさつ」の項目において肯定的な回答が97%以上であり、目標を上回っている。また「相手の気持ちを考える」の項目においても97%以上の生徒が肯定的に答えている。

次年度への改善点

【目標設定】について

○「学校での生活が楽しい」と回答した生徒の割合は1回目92.1%、2回目90.1%となり、様々な制限のもとでの教育活動ではあったが、この2~3年間と同様に高い数値を維持しており、生徒が主体的に学校生活を送ることができていると考えられる。

一方で、学校で認知したいじめについても100%解消してはいるが、「困ったときに相談できる先生がいる」と答えた生徒の割合は1回目65.3%、2回目67.6%となり昨年度と同水準となり改善傾向は見られなかった。さらに、「自分にはよいところがある」と答えた生徒の割合は1回目62.5%、2回目64.7%となり自己肯定感が十分に育まれていないこともうかがえる。不登校傾向の生徒数増加にも歯止めがかからず、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、心に何らかの不安を抱えてながら生活を送っていることが推察される。不安感解消につなげるべく、相談体制の強化をはかり、学校が安心安全な場として提供できるよう組織的に動く必要がある。

【取組内容】について

- ①全学年教材を終える予定である。今後も公開授業を実施し、教員の指導力向上をはかる。
- ②支援が必要な生徒の特性等を教職員間で共通認識する。
- ③今後も継続して指導し、教職員間生徒間の共通認識をはかる。
- ④今後も継続して指導し、規範意識の育成を高める。
- ⑤生徒の些細な変化に気づき、寄り添い理解を深める。
- ⑥個々の生徒の実態を共通認識し、一人一人が安心して過ごせる集団作りをする。
- ⑦防災意識を高め、避難時の行動と知識を身に着けさせる。
- ⑧未受診率は大幅に減少している。
- ⑨全学年2月に実施予定である。
- ⑩清掃に積極的に取り組んでいる生徒は全学年で85.9%であった。(1年79.8、2年86.3、3年93.5)
- ⑪AED研修以外にも無理なく取り組めるものがないか検討する。
- ⑫3学期の学年目標達成度が上がるような取り組みや声かけを行い、1学期までには戻したい。また、次年度の学年目標は、生徒と共に考え、より意識して達成できるものを模索したい。
- ⑬2学期に行ったアンケートの「規則」、「あいさつ」の項目において肯定的な回答が97.6%であり、目標を上回っている。次年度以降も継続して取り組んでいかなければいけない。
- ⑭卒業後は自分に自信をもって、市岡東中学校の卒業生としての自覚をもって、さらなる成長を期待したい。

大阪市立市岡東中学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 ○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 ○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ○令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m走、立ち幅とびの平均の記録を、前年度より向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内調査において、「自分は毎日授業に集中することができている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 80% 以上にする。 ○校内調査において、「授業の内容を理解できていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 80% 以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 よくわかる授業の実施】(教務部)</p> <p>教科の特性を活かし、よくわかる授業を積極的に行う。</p> <p>指標 学校アンケートで授業の内容が理解できていると答える生徒の割合を 1 回目より 2 回目を向上させる。</p>	C
<p>取組内容②【施策 授業展開の工夫】(教務部)</p> <p>主体的、対話的で深い学びができるよう ICT 機器を活用するなど、生徒が主体的に学習する授業を展開する。</p> <p>指標 学校アンケートで自分は毎日授業に集中することができていると答える生徒の割合を 1 回目より 2 回目を向上させる。</p>	B
<p>取組内容③【施策 授業研究】(教務部)</p> <p>年間を通して、校内研究授業（研究討議を含む）を行い、授業力の向上に取り組む。</p> <p>指標 年間を通じ、校内研究授業を 1 人 1 回実施する。</p>	B
<p>取組内容④【施策 特別活動】(教務部)</p> <p>さまざまな体験学習や鑑賞などを実施し、豊かな感性を育てる</p> <p>指標 アンケートで行事は楽しみであると答える生徒の割合を 80 % 以上にする。</p>	B

<p>取組内容⑤【施策 食育】(健康教育部) 食生活の見直しや自己管理ができるよう、食育通信の発行や食育キャンペーンの実施により、食生活への関心を高めさせる。</p>	A
<p>指標 好き嫌いなくバランスの取れた食事ができるよう、給食の残食率減少を促す。</p>	C
<p>取組内容⑥【施策 図書館の活性化】(図書館担当) 学校図書館の活性化を図り、読書活動を推進する。</p>	B
<p>指標 図書館の開館を週8回以上行う。</p>	B
<p>取組内容⑦【施策 地域人材の活用】(教務部) 学校元気アップ事業を活用し、自主学習会を実施する。</p>	B
<p>指標 定期テスト前や放課後、長期休業中自主学習会で、平均週2回以上実施する。</p>	A
<p>取組内容⑧【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(第1学年) 放課後学習や長期休暇中の学習会を行い、学力の定着を図る。</p>	A
<p>指標 テスト前の放課後や長期休暇中で年間10日以上学習会を実施する。</p>	B
<p>取組内容⑨【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(第2学年) 集団として授業を集中して受けることができる空間(環境)づくりを行う。</p>	B
<p>指標 校内調査における、「内容理解」の項目において「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑩【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(第3学年) 日々の授業や放課後学習会を通して、一人一人の学力向上を図り、自分の進路を決定させる。</p>	B
<p>指標 生徒アンケートの「授業への集中」、「授業の内容理解」の項目において、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑪【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(国語科) 知識・語句のテストを実施し、基礎学力の定着を図る。表現力の向上を図る。</p>	A
<p>指標 知識・語句のテストを1/2以上行う。表現指導を年間5回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容⑫【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(社会科) ・生徒の興味・関心を高める授業や教材を工夫するとともに、基礎、基本の定着を図る。 ・グループによる協同学習に取り組み「主体的で、対話的で深い学び」の実現を目指す。</p>	B
<p>指標 授業内でICTを80%以上使用する。</p>	B
<p>取組内容⑬【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(数学科) ICT機器やプリント教材等、多様な授業形態を試み、数学への興味・関心を高め、学力の定着を図る。</p>	B
<p>指標 授業アンケートで、「授業の内容がよくわかる」の項目について肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容⑭【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(理科) 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解、科学的に探究するために必要な観察、実験などを行い、学力の定着を図る。</p>	B
<p>指標 各学年、年12回以上理科室を使用した観察・実験を行う。</p>	B

<p>取組内容⑯【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(英語科) 授業に多様な学習活動を取り入れ、4技能5領域のバランスのとれた伸長と基礎・基本の定着を図る。</p>	B
<p>指標 チャレンジテストの結果を府平均以上にする。(3年) 各学期に1度以上「話すこと」のパフォーマンステストを実施する。(1・2年)</p>	
<p>取組内容⑰【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(音楽科) 基礎的な能力を伸ばし、豊かな感性を養い表現力を高める。</p>	B
<p>指標 授業はじめに基礎的な発声をおこなう。 全学年とも年に5回実技テストを実施する。</p>	
<p>取組内容⑱【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(美術科) 美術の鑑賞を通じ視点を拡げ、基礎的な技能の育成を図る。</p>	B
<p>指標 授業アンケートの「興味関心意欲の向上」で「そう思う」の数値を50%以上にする。</p>	
<p>取組内容⑲【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(保健体育科) 安全・安心を一番に考え、指示を守り、集団行動のできる学習集団の育成を図る。</p>	B
<p>指標 授業アンケートの「興味・関心・意欲の向上」で「そう思う・ややそう思う」の数値を1回目より2回目を向上させる。</p>	
<p>取組内容⑳【施策 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(技術家庭科) 身近な例を挙げながら生徒の興味関心を深め、基礎基本の技術を定着させる。</p>	B
<p>指標 総授業数の2/3以上を実習時間にとし、作業時間を確保する。 単元ごとに振り返りアンケート、小テストを実施する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	

<p>【年度目標】について</p>
<p>全市共通目標</p>
<p>○中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>3年生：3教科 0.95(1年時) ⇒ 0.95(2年時) ⇒ 0.92(3年時) (昨年より低下) 5教科 0.95(2年時) ⇒ 0.95(3年時) (昨年と変わらず)</p> <p>2年生：3教科 0.93(1年時) ⇒ 1.02(2年時) (昨年より大幅上昇) 参考：5教科 1.10 1年生：3教科 0.97</p>
<p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。</p> <p>3年生：22.5(1年3教科) ⇒ 24.7(2年5教科) ⇒ 20.3(3年5教科) (4.3ポイント減少) 達成 2年生：28.0(1年3教科) ⇒ 11.8(2年5教科) (16.2ポイント減少) 達成 1年生：20.0(3教科)</p>
<p>○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。</p> <p>3年生：23.8(1年3教科) ⇒ 27.1(2年5教科) ⇒ 26.6(3年5教科) (0.5P減少) 未達成 2年生：23.2(1年3教科) ⇒ 40.8(2年5教科) (17.6ポイント増加) 達成 1年生：23.0(3教科)</p>

○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させるについては、1回目 83.9%、2回目 85.5%で2回目の方が上昇している。また、令和2年度と比較してもほぼ同じ数値となったので達成できたと考える。

○令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走、立ち幅とびの平均の記録を、前年度より向上させる。

一部達成

50m走：男子 8.08秒 → 7.73秒、女子 8.47秒 → 8.58秒

立ち幅とび：男子 178.96cm → 188.94cm、女子 180.04cm → 168.23cm

2年前と比較し、2種目とも男子のみ向上することができた。ただし、女子の数値は全国平均を上回ることができた。

男子の50m走は全国平均を0.28秒上回ったが、立ち幅跳びは全国平均を7.42cm下回った。

女子の50m走は全国平均を0.30秒上回り、立ち幅跳びは全国平均を0.08cm上回った。

学校園の年度目標

○校内調査において、「自分は毎日授業に集中することができている」、「授業の内容を理解できていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上については、1回目 88.5%、2回目 87.5%となり、2回目の方が1%下がったが目標数値は達成できた。

【取組内容】について

- ① 1回目 88.5%、2回目 87.5%であった。極端な変動ではなく、高い数値で推移していたので誤差と考える。
- ② 第2回目の生徒アンケート〔「学級と友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり～」の項目〕の結果は85.5%で、第1回目より1.6%の向上が見られた。グループ学習やペアワークの活動が、自分の考えを持つきっかけになり、学習の集中力も上がっていいる。
- ③ コロナ対策等で行事予定の変更はあったが、校内研究授業を1人1回実施する時間は確保している。現時点では予定通りに進んでいる。
- ④ 1回目 92.7%、2回目 94.7%であった。行事の満足度が反映されたと考える。
- ⑤ 暑い季節は食欲が落ちるため、残食が増加しているが、今後も継続して指導を実施し、残食率減少に努力する。最近は主食以外完食も増加している。
- ⑥ コロナ対応により放課後が開館できなくなってしまった為、週8回の開館が達成できなかった。
- ⑦ 年間を通して予定通り実施できた。
- ⑧ 学力・体力面では、ほとんど通常通りに教育活動が実施できたため、放課後や長期休暇中の学習会を中心に補習等を1月末までで48日実施することができた。声をかけた生徒以外にも自主的に参加する生徒も増えてきている。学年末テストに向けて一人ひとりの学力・体力の定着と底上げを図っていきたい。
- ⑨ どの教科においても授業規律の確立が進められている。指標である「内容理解」の項目において肯定的な回答が87.9%であり、目標を上回っている。
- ⑩ ほぼ全員が授業に集中して取り組めている。忘れ物をする生徒がいなくなってきた。自らが元気アップ学習会や放課後の補習に参加し、学力の向上を図り、進路路決定につなげている。アンケートの「授業の内容理解」の項目において肯定的な回答が87.5%であり、目標を上回っている。
- ⑪ 基礎学力の向上を図るために、知識・語句テストを週時数の半分以上実施した。表現活動に関するもの、個々の生徒に応じた指導を実施し、充実した内容となつた。
- ⑫ ICTを80%活用し、基礎、基本の定着を図れている。授業内でもグループワークや意見交流、発表などを行うことができている。

- ⑬ ICT 機器やグループ学習などを活用することで、興味・関心を持てるよう取り組んでいる。週に 1 回以上は家庭学習用としてプリント教材を作成し、提出をきちんとさせることで基礎学力の定着を図っている。
- ⑭ 指標である、年 12 回以上理科室を使用した観察・実験に関して、予定を上回るペースで行うことができている。また、週末課題など家庭学習を行う機会の提供と回収を徹底することで、基礎学力の定着を図っている。
- ⑮ さまざまな学習活動を取り入れた授業を行ってきた。1・2 年生では各学期にインタビュー やスピーチのテスト、プレゼンテーションを実施した。3 年生のチャレンジテストの結果は府平均 53.2 に対して、51.2 と下回った。「書くこと」や「知識」、「記述式」では上回っているが、「短答式」や「聞くこと」は差が開いた。
- ⑯ 実技テストは全学年とも 3 回おこなうことができている。また、基礎である発声練習もおこない、徐々に声の音量が上がりつつある。ただしコロナ禍であるためマスクは外せず、思うように歌唱指導ができないのが難点である。
- ⑰ 授業アンケートの結果、興味関心意欲の向上が 258 名のうち 135 名だったため目標は達成している。引き続き目標の維持、向上に努める。
- ⑱ アンケートの結果はまだ返ってきていないが種目によっては向上している。授業に関しては意欲的に参加している生徒が増えている。マスクを着けての活動により活動内容が制限されている為基礎能力の向上が困難である。
- ⑲ 2/3 以上の実習時間を確保することと、各単元の振り返りが共に達成できた。

次年度への改善点

【目標設定】について

- 「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合が平成 30 年度 79.2%、令和元年度 83.8%、令和 2 年度 85.9%、令和 3 年度 85.5% と増加傾向が見られる。学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学びの実現」を実施させるために授業改善を図ってきた成果と考えられる。今年度はできる限り校内研究授業の時間を確保し、ICT 機器を活用した授業研究にも取り組んだ。授業改善を教員が個別に行うのではなく、より効果的なものにするためにめざす授業の姿を共有するなど、引き続き組織的に進める必要がある。

【取組内容】について

- ① アンケート結果では 1 回目よりは低い数値であったが、俯瞰的に見て高い数値であると考える。引き続き研鑽を積む。
- ② 生徒が一人一台の端末があることに慣れてきていることを生かした授業の展開を目指す。教員間での使用頻度の差を少なくして主体的に取り組める題材を共有し、アンケート結果の維持向上を目指す。
- ③ コロナ対策が少なくなっていることを仮定して、年間の研究目標の設定や、研究討議のありかたを検討する。
- ④ 今年度は多くの行事が例年とは違う形で行われたので、コロナ対策が少なくなっていることを仮定して、行事を検討していく。
- ⑤ 食事に関する調べ学習をおこない、その資料をもとに昼休みの時間を利用して保健委員が「ひと言保健通信」を放送で実施した。
- ⑥ コロナ対応がなくなれば感染症対策に気を配りつつ、どうすれば放課後に開館ができるかを模索していく。
- ⑦ テスト日などの行事の変更連絡を密行い、生徒にとって学習効果の高い学習会の日程を設定する。

- ⑧まだまだ、学力・体力ともできる生徒・できない生徒の差が激しい集団であり、生活面でも支援が必要な生徒が多いため、一人ひとりに応じて対応する必要がある。次年度は、下級生の見本となるような意識付けをしながら、学力・体力・生活面で生徒同士でも協力して底上げを図っていけるようにしてきたい。
- ⑨指標である「内容理解」の項目において肯定的な回答が80.0%であり、目標にはぎりぎり届いているが低い水準となった。学習する空間としては良いと感じるが、実力がついているかどうかはチャレンジテストの結果を加味し判断する。結果によって、補習、家庭学習課題、授業展開の見直しが必要である。
- ⑩これからも日々の成長と学力の向上に協力できる体制を築いていきたい。
- ⑪確実な基礎学力の定着を図りながら、学習者が興味・関心を強く持つ授業展開を実施したい。
- ⑫ICTを80%活用し、基礎、基本の定着を図れている。授業内でパソコンを活用し、プレゼンや発表を行うなど生徒自ら取り組み、学ぶ姿勢が見えた。
- ⑬ICT機器を活用し、興味・関心を持てるよう取り組んでいるが、デジタル教科書が少し使いにくいので、使う回数が減っている。今後は使用するデジタル教材を検討する必要がある。アンケートでの指標は達成できているが、テストを見ると基礎学力が定着しているとはまだ言い難い状況なので今後も、家庭学習、授業の在り方を見直していきたい。
- ⑭指標に関しては達成することができた。来年度においても実験・観察の機会ができるだけ多く取り入れ、興味関心を持たせた上で主体的に活動し、科学的な思考の育成を行っていかなければならない。また、応用的な思考力の向上を行う。
- ⑮コロナ禍における適切かつ効果的な「話すこと」の学習活動を工夫したい。GTECの結果、「書くこと」は市平均を大きく上回った一方、「読むこと」の差は大きかった。さまざまなもので読む経験を通して「読むこと」を向上させたい。
- ⑯実技テストはまだ回数を達成していないが、表現力を身に付けるため鑑賞を中心に取り組んでいる。歌唱のみに限らずさまざまな分野で音楽能力が身に付けられるよう検討する。
- ⑰実技だけでなく、座学による美術史の内容もテストまでにせず、その後も調べ学習を継続して取り組ませることで興味関心をもつききっかけになっている。次年度ではさらに実技との結びつきも強めた内容を模索し、さらにアンケートの結果を向上させる。
- ⑱入学校段階で基礎的な運動能力が低いので、基礎的な運動能力をあげていく必要がある。
- ⑲補習の生徒は少なくなってきたが、実技の効率をより高める工夫を検討する。